

保護者の皆様へ

本年度は、コロナウィルス感染症対策のため、保護者の皆様方を学校にお迎えすることができませんでした。大変申し訳なく、また残念でなりません。本来なら入学式会場で述べるべき学校長式辞を、印刷して配布いたします。ご家庭で、お子様とご一緒にお読みください。

令和2年4月8日

式 辞

兵庫県立太子高等学校
校 長 松浦りつ子

例年になく早く咲き初めた朝日山の桜が、春の日差しに輝く今日の佳き日に、兵庫県立太子高等学校第45回入学生を無事に迎えられたことを、なによりもありがたく感じます。

ただいま入学許可しました200名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。本来なら入学式の会場で、お子様方の晴れ姿を一緒にお祝いいただけるのですが、本年はそれができないことが、残念でなりません。

今年は、コロナウィルスの感染予防対策のため、新入生の皆さんはさまざまなところで臨機応変な対応を求められてきました。高校の入学試験においても中学校の卒業式においても、そして、本日も同様です。先が見通せない社会の状況に、振り回されているように感じている人が多いかもしれませんが、そのたびに柔軟に対応して今日の日を迎えられていることに、私は皆さんの生きる力を感じます。瑞々しい伸びる力です。私たち教職員と在校生一同は、そういう皆さんを迎えることができたことに感謝し、心から歓迎します。

太子高校の今年のキャッチフレーズは「自己の可能性に挑戦する」です。決して「限界を打ち破る」ではありません。まずは、総合学科での学びを通して自分自身の持つ「可能性」に気づくことから始めてください。さまざまな選択科目、多彩な発表の機会、多くの地域貢献活動や国際交流活動など、太子高校には皆さんが今まで知らなかった自分自身に気づける機会や仕掛けに溢れています。誰かに教えてもらったり指示してもらったりして動くのではなく、主体的に考え自分で挑戦する気持ちが大切です。総合学科で学ぶということは、そうした自己の発見や成長を促進することに直結しています。自分で見て確かめて判断し、行動して発見してください。「失敗と書いてせいちょうと読む」というのは、野球の野村克也監督の言葉です。総合学科での学びは、まさに

「^{せいちょう}失敗」なのです。何事にも果敢に挑戦すれば、必ず自分だけの宝物が見つ

かります。これが、総合学科で学ぶ面白さと奥深さです。私たちは、必ず皆さんの学びを支えます。

本校は、地域貢献活動や国際交流活動にも力を入れています。地域の皆様からは、太子高校生がいてくれて良かったと言っていると思います。皆さんの先輩方が、丁寧な地域活動をしてくれたからです。皆さんも、自分にできることを見つけてください。太子高校は、そうやって歴史をつないできました。国際交流活動では、姉妹校である西オーストラリアのイースタンヒルズ高校と台中市立豊原高級中等学校との、相互ホームステイによる語学研修を行っています。本年度は、コロナウィルスの蔓延により、オーストラリアとの相互ホームステイは中止が決定していますが、状況が好転すれば次年度は再開する予定です。台湾との交流は今後の状況次第です。しかし、国内にいてもこの二つの高校との交流はできます。どうぞ、積極的に参加してください。言葉と国境を越えた交流は刺激に満ちています。新しい発見もあります。英語が苦手だからと思っている人ほど変身できるのが、国際交流活動なのです。自分の可能性に挑戦しましょう。

地域貢献活動や国際交流活動からは、コミュニケーションの力だけではなく、人を思いやることも人の気持ちを汲み取ることもできるようになります。これが、「人とつながる力」になるのです。太子高校でなら、それを培うことができます。いろいろなところでいろいろな人とつながっていきましょう。人生の彩りは、人とのつながりの幅広さと多さが作り出すものだと思います。これからの人生を彩るために、高校生活でたくさんの人とつながってください。本日から始まる太子高校での生活が充実したものになるよう、期待しています。

保護者の皆様、今日から皆様方の大切なお子様を、責任を持ってお預かりいたします。三年後に、皆様方のお手元にお返しするときには、「太子高校に入学させて本当に良かった」と言っているだけで、教職員一同、心を込めて教育活動を行います。どうぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんの太子高校での生活が、新たな出会いと発見に満ちたものになることを、そして健康で生き生きとした活動ができる毎日であることを、心より祈念して、式辞といたします。